

2 調査結果の概要

<回答者の属性について>

(1) 回答者の性別(問1)

回答者の性別は、「女性」が58.0%、「男性」が41.9%、「無回答」が0.1%となっている

(2) 回答者の年齢(問2)

「50代」「60代」「70代以上」が回答者の7割以上を占めている

・回答者の年齢は、「70代以上」が35.1%と最も多く、次いで「50代」が20.2%、「60代」が18.7%となり、50代以上の年齢層が全体の74.0%を占める結果となっている。

(3) 回答者の就業状況・雇用形態(問3-1・3-2)

回答者の就業状況は、「会社、団体、官公庁等に勤務している」が48.0%と最も多く、雇用形態は、「正社員」が52.9%と最も多くなっている

・回答者の就業状況は、「会社、団体、官公庁等に勤務している」が48.0%と最も多く、次いで「勤務・就労していない」が34.3%となっている。

・「会社、団体、官公庁等に勤務している」と答えた人のうち、最も多かった雇用形態は「正社員」で52.9%となっている。次いで、「アルバイト・パート」が30.0%となっている。

・雇用形態を性別にみると、「正社員」と答えた割合は、女性で40.5%、男性で68.4%となり、男性の方が「正社員」の割合は高い。一方、「アルバイト・パート」と答えた割合は、女性で46.4%、男性で9.5%となり、女性の方が「アルバイト・パート」の割合は高い。

<男女共同参画について>

(4) 男女の地位の平等感(問4)

「家事」「職場」「学校園での教育」「地域活動」「政治」における男女の地位の「平等感」は増加しているものの、「学校園での教育」「地域活動」を除いた項目の「男性優遇感」は依然として高い

・日常生活のあらゆる分野における男女の地位の平等感について、「学校園での教育」及び「地域活動」は「平等」の割合が高く、それ以外の項目については「男性優遇感」の割合が高くなっている。

・「男性優遇感」の割合が最も高いのは「政治」で、前回調査と同様の傾向となっている。

・前回調査と比較すると、「家事」「職場」「学校園での教育」「地域活動」「政治」の「平等感」は増加している。

・女性は「男性優遇」、男性は「平等」と感じる人が多い傾向にあること、一部項目において年齢が上がるにつれ「男性優遇感」が高くなるといった傾向が確認され、性別や年齢によって認識が異なっている。

・「平等感」は性別によって認識が異なっていることから、その背景をそれぞれの立場に立って丹念

にみていく必要があると考えられる。

(5) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について(問 5・6)

全ての属性において<反対>の割合が高い

- ・全ての属性において<反対>の割合が高く、全体では<反対>が 48.2%、<賛成>は 19.4%となっている。
- ・性別でみると<賛成>の割合は、女性より男性の方が 9.4 ポイント高い。
- ・年齢別でみると全ての年齢層で<反対>が<賛成>を上回っている。
- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見について、「親、家族などの近親者の影響」が最も多い。

(6) ジェンダー問題や男女共同参画について(問 7・8)

半数を超える人がジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのか学んだり、教えられたりしたことがない

- ・ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのか学んだり、教えられたりしたことがあるかどうかについて、全体及び性別でみると「いいえ」と答えた人が半数以上を占める結果となっている。
- ・年齢別にみると、年齢が上がるにつれジェンダー問題や男女共同参画について学んだり、教えられたりした割合は減少する。そのことから、高年齢層に対してジェンダー問題や男女共同参画を学ぶ機会の提供が望まれる。
- ・ジェンダー問題や男女共同参画については、「メディア(本、雑誌、テレビ、インターネットなど)」から学んだり、教えられたりしている割合が高い。

(7) 性別にとらわれない暮らし方について

回答者の 2 割が「性別にとらわれない暮らし方をしている」と回答している

- ・性別にとらわれない暮らし方をしているかについて、「している」と答えた人は 20.3%、「していない」と答えた人は 26.0%、「特に意識したことがない」と答えた人は 46.1%となっている。

<男女共同参画センターについて>

(8) 宝塚市立男女共同参画センター・エルの利用について(問 10・11)

回答者の 8 割を超える人が宝塚市立男女共同参画センター・エルを「利用したことがない」

- ・回答者の 89.4%が宝塚市立男女共同参画センター・エルを「利用したことがない」と回答している。
- ・利用されていた項目のうち、最も多かったのは「男女共同参画についての講座や講演会」で、「60 代」「70 代以上」が他年齢に比べて多く利用している。
- ・「利用したいもの」について尋ねると、50.0%の人が「利用したいものはない」と回答し、次いで多かった項目は、「情報の収集・提供」となっている。

・「利用したいもの」について年齢別にみると、「情報の収集・提供」では「10代」「60代」、「市民のネットワークづくり」では「10代」、「自主的な活動への支援」では「10代」、「男女共同参画についての講座や講演会」では「60代」「70代以上」が多く回答している。

・宝塚市立男女共同参画センター・エルの利用率が低いことから、市民に対してあらゆる場面において周知していくとともに、それぞれの年齢のニーズに応じた事業の展開が求められる。

<あらゆる分野における女性の参画拡大について>

(9) 女性のリーダーが増えることについて(問12・13)

9割を超える人が、女性リーダーが増えることを「望ましい」と回答している

・あらゆる分野で女性の参画が進み、女性のリーダーが増えることについて、93.7%の人が「望ましい」と回答している。

・女性のリーダーが増えると、どのような影響があるか尋ねると、「性別にとらわれず、優秀な人材が活躍できるようになる」が最も多くなっている。

<防災における男女共同参画の推進について>

(10) 違いや多様性に配慮した災害対応について(問14)

性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくためには、「日頃から性別にかかわらず、多様な人が協力して地域活動を行う」必要があると考える人が多い

・性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために、どのようなことを日頃から行っていく必要があると思うか尋ねると、最も多かった項目は「日頃から性別にかかわらず、多様な人が協力して地域活動を行う」で55.6%、次いで、「これまでの災害での課題(避難所での性暴力、プライバシー確保など)を学ぶ」で36.2%となっている。

<性の多様性について>

(11) 性の多様性を認め合う社会について(問15)

性の多様性を認め合う社会を作るために「教育現場での啓発運動や配慮」が必要だと考える人が多い

・性の多様性を認め合う社会を作るために必要なことを尋ねると、最も多かった項目は「教育現場での啓発運動や配慮」で60.9%、次いで「専門相談窓口の設置」35.8%となっている。

<あらゆる暴力の根絶について>

(12) 相談窓口やデートDVの認知について(問16・17)

各種相談窓口やデートDVの認知度は低い

・各種相談窓口の認知度については、「無回答」が最も多く59.4%となっている。設問が「知っているもの」を選択する形式であったため、「無回答」の中には、回答をしていない人に加えて、「全ての相談窓口を知らない」という人も含まれることに注意したい。そのため、各種相談窓口の存在や機